

第17回

全日本スポーツダイビング室内選手権大会

The 17th All Japan Sport Diving Indoor Championship

期日：平成22年12月5日(日)

会場：千葉県国際総合水泳場(JR・京葉線 新習志野駅前)

報 告 書



期	日：平成22年12月5日(日)
会	場：千葉県国際総合水泳場(長水路)
主	催：財団法人 社会スポーツセンター
主	管：日本スポーツダイビング協会 日本スノーケリング協会
後	援：文部科学省
助	成：独立行政法人日本スポーツ振興センター



大会開催概要

主催 財団法人 社会スポーツセンター

助成 日本スポーツ振興センター

主管 日本スポーツダイビング協会

日本スノーケリング協会

期日 平成22年12月5日(日)

会場 千葉県国際総合水泳場

参加選手数 569名(94チーム)

後援 文部科学省、(財)日本体育協会、全国水産高等学校長協会(教科「水産」研究委員会)、(財)日本海洋レジャー安全・振興協会、(社)レジャー・スポーツダイビング産業協会、日本ライフセービング協会、日本水泳ドクター会議、大学ライフスポーツ教育学会、国立沖縄青少年交流の家、日本スクーバ協会、日本ウェットスーツ工業会、東京新聞・東京中日スポーツ、月刊マリンダイビング、月刊ダイバー

協力 千葉県国際総合水泳場、千葉県水泳連盟、ADS、BSAC、CMAS=JEFF、DACs、JCS、JP、JUDF、KD、MTES、NAUI、PADI、関東学生潜水連盟(青山学院大学、学習院大学、慶應義塾大学、芝浦工業大学、上智大学、成蹊大学、中央大学、東京海洋大学、東京女子体育大学、獨協大学、日本大学、法政大学、明治大学、立正大学、早稲田大学)、日本海洋技術専門学校、全国水産高等学校教科「水産」研究委員会(潜水部会)、Cカード協議会、東京海洋大学ライフセービングクラブ



▲ご来賓の皆様

▼カップ&楯



開催にあたって

1994年(平成6年)10月、スポーツとしてのスクーバダイビングの安全思想の普及を目的としてスタートした、本大会も、第17回大会を迎えることができました。これもひとえに文部科学省をはじめ、ダイビング関係団体、協賛企業、大会関係者等のご協力をいただいた皆さまのご尽力のたまものと深く感謝申し上げます。

開会あいさつ

健康志向が高まる昨今、スポーツダイビングは既存の価値に加えて、若い世代はもちろんのこと中高年や高齢者にいたるまで、満足のできる健康づくりにおいても注目されてきております。

特に、本大会種目のようなプールにおけるスポーツダイビングプログラムについては、予防医学の観点からも健康増進に寄与する水中運動の新たなプログラムとして、その可能性を高く評価されております。



(財)社会スポーツセンター 会長

後藤 忠治

祝辞

観光立国を目指し、スポーツツーリズム政策に力を入れている我が国においては、都心部での大会、地方での大会がそれぞれその特色を活かしながら、日本全体としてスポーツの活性化を行っていくことが重要です。

そういった観点から、本大会とマリニックは、車の両輪として、これからも我が国のスポーツダイビング界を牽引していき、さらには、世界に我が国のスポーツダイビング文化を発信していく大会として成長していくことを確信しております。この大会を支えているスタッフの皆さんも是非頑張ってください。



衆議院議員
沖縄県スノーケリング協会 会長
下地 幹郎

祝辞

この事故管理能力を高めるためにはダイブ経験を積むことが大切ですが、ダイブ経験とは実際のダイブによってスキル・アップするだけでなく、事前の講習や継続的な練習をして、一つ一つの技術、そしてトータルとしての潜水技術を如何にしっかりと習熟させていくかということも大切です。

競技により、ダイビングの技能や体力、泳力を向上させることは、生理学的にも安全ダイビングにつながるとも重要なことであると考えられます。



東京医科歯科大学 名誉教授
眞野 喜洋

大会によせて

この大会の目的は、ダイビング事故防止です。ダイビング事故の起こる原因は、とても複雑ですが、事故の防止には、100の議論よりも、泳ぐ練習です。

フィン・マスク・スノーケルで泳ぐことの頂点として、この大会が行われ、歴史を重ねてまいりました。皆様のおかげで、本日の大会を開催することができます。お礼を申し上げますとともに、皆様の健闘、そして海での安全で楽しい活躍を祈念します。



(財)社会スポーツセンター 顧問
須賀 次郎



開会挨拶
後藤忠治大会会長



来賓挨拶 瀧田雅樹様
(文部科学省 教科調査官)



来賓挨拶 下地幹郎様
(衆議院議員)



選手宣誓 村野 史選手
日本大学 / 関東学生潜水連盟

大会役員

大会会長	後藤 忠治	財団法人社会スポーツセンター 会長
大会相談役	竹井 博康	セントラルスポーツ株式会社 代表取締役社長
大会実行委員長	須賀 次郎	財団法人社会スポーツセンター 常務理事
大会競技委員長	佐藤 矩郎	Oak キャピタル(株) 代表取締役会長兼グループ代表
大会競技顧問	市原 隆久	財団法人社会スポーツセンター 顧問
	後藤 勝一	日本海中技術振興会 会長
名誉顧問	寺島 英一	セントラルスポーツダイビング協会
大会顧問	玉置 敏夫	C M A S = J E F F 会長
	宇佐 美彰	全日本潜水連盟 理事長
	岩波 力	社団法人ジャ・スポ・ダイビング産業協会 最高顧問
	片山 直樹	東海大学 名誉教授
	斉藤 雅文	大学ライフスポーツ教育学会 会長
	酒井 哲雄	元東京厚生年金病院 整形外科部長
	鈴木 浩二	千葉県水泳連盟 理事長
	関 邦真	頌栄保育学院 理事長
	澤 真逸	千葉県水泳連盟 副理事長
	中谷 三男	元神奈川大学 教授
	白井 久義	セントラルスポーツ株式会社 取締役副社長
	佐藤 良一	財団法人産業教育振興中央会 事務局長
	細江 文利	全国水産高等学校長協会 理事長
	眞野 喜洋	国立沖縄青少年交流の家 所長
	齊藤 裕	東京学芸大学 教授
		東京医科歯科大学 名誉教授
	山崎 幸雄	全国水産・海洋高等学校 教科「水産」研究委員会 (潜水部会) 部会長
	相川 正男	セントラルスポーツ株式会社 専務取締役
	河本 勝	セントラルスポーツ株式会社 執行役員部長
大会参与	河合 祥雄	セントラルスポーツ株式会社 執行役員部長
	田村 祐司	順天堂大学医学部 准教授
	野村 武男	東京海洋大学 准教授
	松本 高明	筑波大学 名誉教授
	吉田 章	国土館大学 教授
大会実行委員	有原 義則	筑波大学 教授
	内本 照雄	ワールドダイブ株式会社 取締役
	岡本 文孝	鬼怒川商事株式会社 管理部長
	河井 秀一	国際ダイビングスクール協会 会長
	才木 康彦	セントラルスポーツダイビング協会
	三枝 佳紀	関西潜水連盟 理事長
	傍島 浩史	セントラルスポーツダイビング協会
	高階 佑輔	スキューバプロ・アジア株式会社 代表取締役
	高田 成幸	関東学生潜水連盟 委員長
	武田 修一	ワールドダイブ株式会社 代表取締役社長
	中野 龍一	株式会社タバタ 代表取締役社長
	中村 雅人	株式会社パディージャパン 代表取締役社長
	船木 和則	全日本潜水連盟 理事
	細川 俊一	全国水産・海洋高等学校 教科「水産」研究委員会
	丸山 和昭	BSAC JAPAN 代表
	宮木 則之	株式会社ナウイエンタープライズ 代表取締役社長
	村瀬 保文	全国水産・海洋高等学校 教科「水産」研究委員会
	元廣 孝志	日本海洋技術専門学校 校長
	保田 志守	財団法人尾道海技学院 M T E S 事務局長
	柳田 満彦	株式会社モビーディック 代表取締役社長
	横山 政昭	伊東フリッパークラブ 代表
	吉田 元秀	全日本潜水連盟 常任理事
	竜崎 秀夫	日本アクアラング株式会社 常務取締役
	渡邊 彰二	日本職業潜水教師協会 理事長
実行委員事務局	瀨田 芳博	日本アクアラング株式会社 相談役
	堀田 朋之	財団法人社会スポーツセンター
	遠矢 英憲	財団法人社会スポーツセンター
	柴 篤博	財団法人社会スポーツセンター

(敬称略：五十音順)

競技役員

競技委員長		佐藤矩郎				
競技顧問		市原隆久	後藤勝之	寺島英一郎		
審判長		三枝佳紀				
副審判長		中村雅人	小夫家彰造	岸本弥司		
出発合図員	(主)	都嶋信成	河井秀一			
出発合図補助員		橋本匠平	佐々木雄大	遠藤駿	丸山秀樹	大嶋伸幸
計時員	(主)	大畑誉之	森吉寛裕			
		堤箸真弘	自見直人	後藤温実	田中路	高野翔太
		伊藤大樹	吉田海	河野雅行	上田佳純	高階佑輔
		村野史	栗田康平	川岸千裕	檜山直崇	鎌田祥平
		植草翔志	佐藤明生	金子健司	戸谷拓未	東俊悟
		八巻由里菜	八木沢友樹	大岡弥生	日下征子	関口彩子
		田野倉美幸	長岡瑞	宮崎真衣		
器材係員		安藤祥花	石山光	羽田有里	水島万有美	中村慶
		土屋初希	笠間玲央	村田陽平	太田千鶴	鎌田篤史
		坂元すみれ	中川真穂			
着順審判員	(主)	斉藤義久	長井幸子	藤原浩史	神一誠	
機械審判員	(主)	小野俊樹	森田祐理			
監察員	(主)	中西新一郎	澤地良雄	新聞涼子	星野侑希	池内和也
		伊佐美浩一	斎藤由紀子	野田美樹	春木良和	山崎友実
		小川真仁	中村円馨			
		飯塚広夫	五味高宏	児島武	斉藤司	高木弘隆
召集員	(主)	倉田秀一	上倉康宏	石川総一郎	高橋稔	横山政昭
		米沢秀記	吉村忍	鈴木茂	中嶋則雄	諏訪部英俊
		梶峰人	横井淳	石井彰	井上仁	桜井誠一
		古川卓俊				
		福山卓人	北村瑛基	下嶽尚貴	濱崎大樹	矢沢悠太
救護	(主)	片山直樹(医師)	金戸陽子(看護師)			
通告員	(主)	菊池久美子	宮本八重			
記録員	(主)	堀田朋之	篠原伸明	松浦成夫	中村真也	中野真実
		松本香代子	水野裕樹	村井港	七條直弘	
会場受付	(主)	柴沼篤博	小堀隆利	澄川 実		
総務	(主)	瀬田芳博	遠矢英憲	印南幸一	田坂 英郁	高野 修
司会		瀬田芳博				
来賓・表彰	(主)	青木陽子	井上豊美	佐藤広美	鈴木美智子	



文部科学省認可

財団法人 社会スポーツセンター

スナップ写真



▲ 50 mフリッパージュニア



▲フリッパー (50 m、100 m、400 m)



▲フリッパー (50 m、100 m、400 m)



▲ 100 mバディブリージング



▲ 100 mレスキュー



▲ 200 m潜泳



▲ 100 mレスキュー



▲ 400 mフリッパーリレー



▲文部科学大臣賞 受賞者



▲ベストダイバー賞受賞者



▲年齢別表彰 受賞者



▲年齢別表彰 受賞者



▲総合表彰受賞者



▲総合表彰受賞者



▲大学対抗エキシビジョンレース表彰



▲大会を支える競技役員（ボランティアスタッフ）

全日本スポーツダイビング 室内選手権大会

大会公認記録

2010年12月5日現在

種目	氏名	記録	樹立
○フリッパー			
50Mジュニア男子	下崎 哲也 (セントラル新浦安①)	27" 63	2010
50Mジュニア女子	山脇 いずみ (多摩スポーツセンター)	30" 31	1999
50M 男子	松浦 弘輔 (三谷水高ダイビング)	26" 10	2004
50M 女子	上原 由紀 (伊東益田会 M)	28" 08	2003
100M 男子	小峰 千明 (後藤会 A)	56" 12	2010
100M 女子	椛田 弥生 (セントラルスポーツ後藤会B)	1' 01" 91	2010
400M 男子	赤間 大介 (伊東フリッパークラブ A)	4' 21" 85	2010
400M 女子	近藤 亮子 (セントラルスポーツ後藤会 E)	4' 55" 10	2003
リレー4×100M 男女	伊東 益田会 A (上原 義浩・森 健司・木村 幸子・赤間 大介)	4' 00" 47	2002
○潜泳			
200M 男子	柳田 満彦 (伊東益田会 A)	2' 15" 03	2003
200M 女子	原 美どり (益田会 B)	2' 39" 25	2004
○バディブリージング			
100M 男女	佐川 宏幸・佐川 久美子 (全日本潜水連盟)	1' 19" 13	1995
○レスキュー			
100M 男子	町田 裕樹 (ITO フリッパークラブB)	1' 04" 40	2010
100M 女子	栗山 貴子 (セントラルスポーツ A)	1' 10" 04	2001

< 50m長水路公認 >

▲5つの大会新記録が生まれました。

年齢別大会公認記録

				2010年12月5日現在	
種目	名前	チーム名	タイム	樹立	
○50mフリッパー ジュニア 男子					
10歳以下の部	野呂 駿佑	CFC 二俣川	00' 34" 30	1997	
11歳~12歳の部	渋川 翼	セントラル八王子	00' 29" 82	2005	
中学生の部	下崎 哲也	セントラル大倉山	00' 27" 63	2010	
○50mフリッパー ジュニア 女子					
10歳以下の部	島根 友希	セントラル流山	00' 34" 17	2004	
11歳~12歳の部	河村 美帆	SCAD	00' 31" 90	1997	
中学生の部	山脇 いずみ	多摩スポーツセンター	00' 30" 31	1999	
○50mフリッパー 男子					
高校生の部	松浦 弘輔	三谷水高ダイビング	00' 26" 10	2004	
18歳~29歳の部	山賀 竜馬	セントラルスポーツ後藤会 A	00' 26" 11	2010	
30歳~39歳の部	鈴木 秀利	セントラルスポーツ後藤会 C	00' 26" 40	2009	
40歳~49歳の部	小倉 啓司	スクーパワールド A	00' 28" 18	2007	
50歳~59歳の部	涌井 保	セントラル南大泉 C	00' 29" 39	2004	
60歳以上の部	横井 孝吉	セントラルフィットネス西台 A	00' 30" 21	2007	
○50mフリッパー 女子					
高校生の部	上原 由紀	伊東益田会 M (マックス)	00' 28" 08	2003	
18歳~29歳の部	上原 由紀	益田会フリッパークラブ (ITO) S	00' 28" 46	2005	
30歳~39歳の部	瀬戸 裕子	セントラル青砥	00' 30" 41	2008	
40歳~49歳の部	山田 厚子	セントラル西台 A	00' 33" 93	2006	
50歳~59歳の部	鈴木 美智代	ITO オーナーズ	00' 34" 17	2010	
60歳以上の部	関口 真純	セントラルときわ台	00' 37" 20	2006	
○100mフリッパー 男子					
高校生の部	服部 純也	三谷水産高校	01' 01" 56	2010	
18歳~29歳の部	竹田 一生	伊東FC A	00' 57" 58	2008	
30歳~39歳の部	小峰 千明	セントラルスポーツ後藤会 A	00' 56" 26	2009	
40歳~49歳の部	小峰 千明	セントラルスポーツ後藤会 A	00' 56" 12	2010	
50歳~59歳の部	渡辺 浩之	伊東 (ITO) 宝島	01' 03" 12	2009	
60歳以上の部	横井 孝吉	セントラル西台 A	01' 09" 97	2005	
○100mフリッパー 女子					
高校生の部	杉山 貴子	伊東益田会 M (マックス)	01' 07" 11	2003	
18歳~29歳の部	椛田 弥生	セントラルスポーツ後藤会 B	01' 01" 91	2010	
30歳~39歳の部	加藤 牧子	セントラルスポーツ後藤会 A	01' 05" 60	2009	
40歳~49歳の部	鈴木 美智代	伊東益田会 A	01' 10" 16	1999	
50歳~59歳の部	佐山 ゆかり	ITO DAN'S 鯨	01' 17" 98	2010	
60歳以上の部	鈴木 久美子	セントラルフィットネスクラブ西台 A	01' 25" 28	2010	
○400mフリッパー 男子					
高校生の部	上原 義浩	伊東益田会	04' 32" 08	2002	
18歳~29歳の部	日比野 裕介	セントラルスポーツ後藤会 B	04' 32" 64	2010	
30歳~39歳の部	赤間 大介	伊東フリッパークラブ A	04' 21" 85	2010	
40歳~49歳の部	柳田 満彦	伊東フリッパークラブ Y	04' 34" 92	2007	
50歳~59歳の部	島田 晃	ピビ南光	05' 21" 11	2009	
60歳以上の部	寺田 修二	セントラルフィットネスクラブ西台 B	05' 19" 08	2008	
○400mフリッパー 女子					
高校生の部	遠藤 佑美	焼津水産ダイビング部 A	05' 54" 62	2002	
18歳~29歳の部	近藤 亮子	セントラル後藤会 E	04' 55" 10	2003	
30歳~39歳の部	森 幸子	益田会 A	05' 00" 60	2004	
40歳~49歳の部	渡辺 サヨ子	スキプロ	05' 39" 73	1999	
50歳~59歳の部	渡辺 サヨ子	ピビ南光	05' 56" 08	2002	
60歳以上の部	渡辺 はつみ	セントラルウェルネスクラブ前橋 A	06' 09" 40	2008	

< 50m長水路公認 >

▲ 10の年齢別大会新記録が生まれました。

全日本スポーツダイビング 室内選手権大会

▼埼玉新聞（平成22年12月21日）

200m潜泳 女子総合 田野倉が2位

全日本スポーツダイビング選手権

財団法人社会スポーツセンター主催の第17回全日本スポーツダイビング室内選手権大会（文部科学省ほか後援）が5日、千葉県習志野市の国際総合水泳場で開かれ、全国から84チーム569人が7部門に分かれて速さと技を競った。

同大会は独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成事業で、スキューバダイビングの健全な普及と振興、安全思想の普及を図る競技会として開催している。本県関連の上位成績は次の通り。

▽200m潜泳女子総合2位・田野倉美幸（東京女子体育大学アクアダイビング部）、同5位・中村祐美子（セントラルウェルネスクラブ越谷）、同8位・水島万有実（東女体大ア部）
▽400mフリッパー女子総合4位・渡辺サヨ子（ヒビ南光）▽1000mフリッ

男子総合43位・斎藤芳明（セントラル越谷）、▽同女子総合9位・日下征子（東女体大ア部）、同33位・宮崎真衣（同）、同35位・安藤祥花（同）▽同ジュニア男子総合29位・石川剛（セントラル越谷）、同38位・沼野綾人（同）

▽50mフリッパー

▽1000mフリッ

※その他、
月刊マリンダイビング2月号、
月刊ダイバー1月号
に掲載予定です。

<本大会広告協賛企業>

セントラルスポーツ(株)	Oak キャピタル(株)	ワールドダイブ(株)
日本海中技術振興会	日本アクアラング(株)	スキューバプロ・アジア(株)
(株)ムービーディック	(株)ジェフ	伊東ダイビングサービス
鬼怒川商事(株)	(株)PAD I ジャパン	あいおい損害保険(株)
マリアナ政府観光局	(株)マスク	東京キリンビバレッジサービス(株)
日本ウェットスーツ工業会	(株)タバタ	日本興亜損害保険(株)
(株)ヤマト	(株)ビーイズム	(株)埼玉新聞社
テラル(株)	全日本潜水連盟	赤沢ダイビングセンター
三井実業(株)	(株)ワコム	(株)ジャパンビバレッジ
(有)チップ・チップ	(有)小池健一商店山一	(株)エアー沖縄
TDI ジャパン	(株)マスダック	(株)水中造形センター
明治乳業(株)		

<本大会協力企業>

理想科学工業(株) 日本食研(株) 富士ゼロックス多摩(株)

※マリンスポーツの安全普及に取り組むこの大会へのご支援ありがとうございます。



▲大会を支えて頂いたボランティアスタッフ（関東学生潜水連盟）

文部科学省所管法人
財団法人社会スポーツセンター事務局
〒 206-0003 東京都多摩市東寺方 6 4 7
tel 042-375-1630 fax 042-375-3374
URL <http://www.shakai-sc.or.jp>
e-mail sscinfo@shakai-sc.or.jp